株式会社ビーエスFOX
第14回放送番組審議委員会議事録

1. 開催日　　：　平成30年11月20日(火)13:00～15:00

2. 開催場所　　：　東京都品川区北品川5-5-15 大崎ブライトコア16F

3. 委員の出席　：　委員総数 7名 ／ 出席委員数 5名
審議委員(敬称略)：菊地 実、鳥居 美砂、淺井 正義、阿部 清美、杉山 知之、
曽根 和子(ご欠席)、田保橋 淳(ご欠席)、

放送事業者側出席者氏名 ：	ビーエスFOX取締役	眞島 大介
	ビーエスFOX監査役	杉田 真太郎
	マーケティング部 部長	岸本 裕子
	編成部 部長	伊藤 由起
	編成部	鈴木 香都喜
	編成部	後藤 圭介
	事務局	岩崎 壮一
	事務局	橋本 佳奈(記)

4. 議題:
(1) 株式会社ビーエスFOX事業概況説明
(2) FOXスポーツ＆エンターテイメントより『内川聖一 2000本安打記念～さらなる聖域へ 踏み出したその一歩～』についての番組審議
(3) ナショナル ジオグラフィックよりに『ジェーン』ついての番組審議

5. 審議内容:
(1)株式会社ビーエスFOX事業概況説明
ナショナル ジオグラフィック及びFOXスポーツ＆エンターテイメントの視聴世帯数推移と、2019年4月から9月の主要な番組ラインナップを紹介。またナショナル ジオグラフィックの東経110度CS放送のハイビジョン化完了と認定放送事業者の変更、またこの変更に伴う今後の本審議委員会の審議内容について報告。

(2)FOXスポーツ＆エンターテイメントより『内川聖一 2000本安打記念～さらなる聖域へ 踏み出したその一歩～』についての番組審議
＜委員からの意見＞

・時間をかけてしっかり撮影できている。ロッカールームに入っての撮影など、FOXスポーツだからこそ撮れた画もありよかった。とにかく内川さんが話上手で、インタビューによって内面を引き出されているというより、彼自身が心情を吐露しているようだった。

・内川さんの人間らしさがよく出ていた。この手の番組は、対象となる人に元から興味がないとなかなか見ないものだが、知識があまりない状態で見ても興味深い番組だった。日本シリーズの映像まで入れられればなお良かったのではないか。

・インタビュー・対談番組というよりはドキュメンタリーという印象。撮影場所をもっと工夫すれば良かったのではないか。「FOX」と名のつくチャンネルで放送するのだから、メジャーリーグの番組のような演出や編集を取り入れることで番組の格も上がると思う。撮ったままの映像を出したという印象が残った。

・対談の画が印象的。つくりこまれたスタジオだったら、内川さんがあんなに本音や自らの内面について話すことはなかったのではないかと思う。内川さんの人柄がよく出ていた。自主制作なのだから、今までの枠にとらわれない作り方で良い。告知面でも自主制作という点をもっと強調、前面に出した方が良いと思う。

・野球中継自体は局によってそこまで大きな違いが出ないが、中継番組を放送している局が、この様な一選手にスポットをあてた番組を制作していることを評価したい。こういったチャンネルの差別化にはもっと積極的に取り組んでほしい、それによって野球中継も更に盛り上がると思う。あまり名を知られていない、まだ有名でない選手にも、もっとスポットライトをあててほしい。

・インタビュアーの役割について。視聴者が聞きたいことを引き出すのが本来インタビュアーの役割。今回は元プロ野球選手の仁志さんがインタビュアーだったので、話す側と聞く側が同じ様な視点で話が進行していたが、制作スタッフが視聴者の観点をしっかり抑えておくべきだったのでは。一方、聞き手が仁志さんだったからこそ、内川さんの内面がよく引き出されていたとも考えられる。元からの関係性がないと、あのような本音は出てこないのではないか。

＜事業者回答＞
頂いたご意見を今後の番組制作・編成に活かしていく。今回は内川選手の 2000 本安打達成から少しでも早く放送することに重点を置いたが、自主制作番組の演出や編集については、今後の大きな課題と考えている。2 軍の若手選手にスポットをあてた番組も制作しており、今後も福岡ソフトバンクホークスを掘り下げるオリジナル番組を企画・制作していく。

(3)ナショナル ジオグラフィックより『ジェーン』についての番組審議
＜委員からの意見＞
・類人猿の記録でもあるが、ジェーンという一人の女性の記録でもある。学術的価値は別にしても価値のある映像の数々。カメラマンの視線に彼女への愛情を感じた。動物行動学の本ではよく出てくる著名な方だが、改めて考えさせられることが多い良い番組だった。

・映像を見て純粋にすごいと思った。映像の持つ圧倒的な力、素晴らしいドキュメンタリー。ナショナル ジオグラフィックの魂を感じた、チャンネルの看板たりえる番組。ジェーン自身も素晴らしいが、ジェーンを派遣することを決めた方の発想も素晴らしい。

・チンパンジーの行動が人間社会の根幹の部分を表しているようで、番組を見ていて次第に息苦しくなってくる感さえあった。動物はこういう風につくられている、生きるためには争いは避けられない、という真実を指摘されているようで、深いメッセージ性を感じた。単なるドキュメンタリーというよりも哲学書を読んでいるような印象。できるだけ多くの人に観てもらいたい番組であり、できるだけ宣伝をしてもらいたい番組。

・映像の中身はもとより、今このタイミングでこの企画をやろうと決めたこと自体が素晴らしい。これはナショナルジオグラフィックでないとできない作品。100 時間以上の膨大なフッテージを 2 時間に収めるのは相当大変だったはずだが、映像のつなぎの違和感がなく、考え抜かれた非常に上手い構成。画と音は別撮り、ズームマイクもない時代の素材で、サウンドレベルを揃えることも難しかったはずだが見事に編集されている。感動した。

・約 60 年前に、経験のない一人の若い女性がこういう取り組みを任せてもらえたということが改めて考えるとすごい。単なる研究者としてだけではなく、ジェーンの、女性としての、人間としての魅力があふれている番組。ただ、現代であれば放送されないような映像(動物の死体等)も含まれており、当時を知らない世代への配慮として、時代背景の説明を注釈として入れた方が良かったと思う。

・ジェーン・グドールは憧れの人だったが、ここまで詳細なものは見たことがなかったので、とても興味深かった。他局の番組でもインタビューを見たことがあるが、映像のボリュームもクオリティも別格。モノクロとカラーを効果的に使い分けたり、編集のセンスも良い。

・番組タイトルはもう少し工夫があっても良かった。ジェーンを知らない人が聞いても興味がわかない。サブタイトルをつけても良かったと思う。

・女性というテーマについて。辛抱強く観察するのは女性が向いているのかもしれない、女性だったからこんなにも深く動物と接することができたのではないか、といった観点が見え隠れするのは製

作側の意図なのか。女性に対してポジティブな視点を与える番組を制作したかったのだと推察する。女性はドキュメンタリーをあまり見ないと言われてきたが、こういう内容であれば興味をもって観る女性も多いのではないか。制作の現場もかつては男性が圧倒的に多かったが、最近は女性の活躍が目立ってきている。

＜事業者回答＞
日本語タイトルについては社内でも相当検討したが、結果としてサブタイトルをつけずシンプルな形になった。単発の番組プロモーションは難しい面もあるが、今回頂いたご意見を今後に活かしていきたい。

以上